

2005年4月12日

報道関係各位

「爪白癬」疾患啓発のためのテレビCMシリーズ
「お医者さんへ行きましょう」篇 4月16日から放映

～ 松平健さん、街中を白馬で疾走、爪の水虫を成敗!? ～

ノバルティス ファーマ株式会社（代表取締役社長：馬場宣行）は、4月16日（土）から、潜在患者1,200万人、爪の水虫ともいわれる「爪白癬」疾患啓発のためのテレビCMを全国で放映いたします。



TVCM内容

今回の「お医者さんへ行きましょう」篇を演じるのは、あの松平健さん。犬を連れた中年男性が、ご近所の知り合い（松平さん）に散歩の途中で出会うところからスタート。ふと松平さんがその男性の足元に目をやると、つま先に爪白癬を発見。次の瞬間、そこには“將軍”の姿に変身した松平さんが... そして一言「馬引けえーっ」。將軍様は男性を白馬の後ろに乗せて街中を疾走、無事皮膚科に送りどける、というストーリー。爪白癬に気づいたら、特に他の症状がなくても、ためらわず皮膚科専門医の診察を受けましょう、というメッセージをコミカルに伝えています。また、この男性の奥さんを白馬に乗せ、病院へ送り届けるバージョンもあり、女性への啓発にも力を入れています。

TVCM制作小話

“將軍”が白馬にまたがって街中を疾走するシーンは、CGではなく、実際に東京の閑静な住宅街で撮影されました。今回スタッフが最も気を使ったのが、馬のコンディション。慣れない街中、しかも下はアスファルトのため、なんとなく馬も落ち着かない様子。“暴走”に備えて警備員も多数配置されました。そして、いざ本番スタート。張り詰めた緊張感の中、“將軍”の衣装をまとった松平さんが両足で馬の横腹を蹴り込むと、馬は松平さんの気迫に押されたように走り始め、ぐんぐんスピードを上げていきます。そして約150メートルを走ったところで松平さんが手綱を引くと、馬はスピードを落として無事ストップ。この松平さんの見事な手綱さばきは、迫力あるCM本編でお楽しみ下さい。また、將軍様と飼い主を追って必死で走る柴犬の愛くるしい姿も必見です。



松平 健さんについて

1975年、TV俳優デビュー、その後25年にわたり「暴れん坊将軍」を務める。昨年、おなじみ「マツケンサンバ」が大ブレイクし、社会現象とまでなった。現在、NHK大河ドラマ「義経」で武蔵坊弁慶を好演中。

爪白癬について

爪白癬は、カビの一種である真菌が爪に付着・感染して、爪が白濁したり肥厚する爪の疾患です。国内の潜在患者数は約1,200万人、60歳以上では約40%の人が爪白癬を罹っていると考えられています。爪が白濁し肥厚する以外は、痛みやかゆみといった症状もないことから、あまり疾患として認識されておらず、治療を受けているのは潜在患者数の約15%にすぎません。しかし、治療せずにそのまま放置しておく、足の水虫を治りにくくしたり、家族や周りの人に感染する可能性があります。爪白癬は塗り薬では十分に患部に届かないため、内服薬での治療が有効とされています。爪白癬を正しく診断し、治療するためには、皮膚科専門医の受診が必要です。

ノバルティス ファーマ株式会社は、1997年にアリルアミン系経口抗真菌剤「ラミシール®錠（一般名：塩酸テルビナフィン）」を発売し、1999年より新聞広告や雑誌広告、ホームページの「爪Net（<http://www.tsume.net>）」などで、爪白癬に関する患者啓発活動を展開しています。2003年、2004年に続きテレビCMを放映することで、より多くの方々が、爪白癬やその治療法などについて正しく理解し、適切な治療を受ける機会が増えることを期待しています。

ノバルティス ファーマ株式会社について

ノバルティス ファーマ株式会社は、スイス・バーゼル市に本拠を置く医薬品とコンシューマーヘルスの世界的リーダー、ノバルティスの医薬品部門の日本法人です。2004年の売上高は、2,325億円、国内の医療用医薬品の売上規模で第4位に位置しています。
<http://www.novartis.co.jp/>

ノバルティス グループ全体の2004年の売上高は282億米ドル（約3兆507億円）、当期純利益は58億米ドル（約6,228億円）、研究開発費は42億米ドル（約4,544億円）でした。全世界で約81,400人の社員を擁しており、140カ国以上で製品が販売されています。

以上

<ご参考資料>

TVCM「お医者さんへ行きましょう 親切な將軍 夫」篇



「それ」



爪の水虫を発見



「はっっ」
お医者さんへ向かって走る!



無事お医者さんに到着
「ありがとうございました」



「んっ」
一件落着